

第 53 回神奈川県原爆死没者慰霊祭 2019 年追悼のつどいによせて

広島・長崎に原爆が投下されてから七十四年の歳月が流れました。

原爆そしてその後の原爆症によってお亡くなりになられた皆さまに、謹んで哀悼の誠を捧げます。

74 年前の 8 月 6 日 8 時 15 分、そして 9 日 12 時 2 分。無差別大量殺戮兵器である原子爆弾が市民の頭上に投下されました。熱線と爆風、恐るべき放射線は一瞬にして多くの尊い命を奪いました。かろうじて生き残った人々は、放射線障害に苦しみ、心にも傷を抱えながら戦後を生き抜かれました。

被爆者は、「核戦争を起こすな、核兵器をなくせ」「ふたたび被爆者をつくるな」と訴え続けてきました。しかし、「ビキニ水爆実験での被ばく、JCO 臨界事故、福島原発事故」と、核による被害は続いています。もうこれ以上「核」の惨事を繰り返してはなりません。

この間、いくつかの特徴的なことがありました。

核兵器を「安全保障」の枠の中で議論するのではなく、「非人道性」に着目し法的に禁止しようとする世界の世論は、2017 年 7 月 7 日、国連における 122 か国の賛成を得た核兵器禁止条約の採択に繋がりました。国連は更に 18 年 12 月、核兵器禁止条約の制定を歓迎し、各国に早期の署名、批准を求める決議を 126 か国の賛成で採択しています。私たちは条約の早期発効を心から望むものです。

世界では、市民の働きかけにより都市が自国政府に核兵器禁止条約に参加を呼び掛ける、「シティー・アピール」も始まりました。核保有国でも、米国のワシントン DC や、フランスのパリと、核兵器保有数の 1 位と 3 位の首都が、条約参加を自国政府に求めています。

米国では更に全米市長会議は、2017 年 6 月には、核兵器禁止条約に関する交渉を支持するよう求める決議を採択し、2018 年には、条約についての政府方針の転換を要請する決議を、今年、条約を改めて支持し、2020 年の大統領選の候補者に向けて、核兵器廃絶の交渉で指導力発揮を求める決議を採択しています。

核兵器廃絶のうねりは、大きく広がっています。

被爆者は「人類が原爆の記憶を忘れることを恐れる」と言います。原爆の記憶を忘れた時、それは、人類が絶滅する時です。核兵器は、いかなる理由があっても、使ってはなりません。核戦争から人類が生き残るためには、使い勝手の良いスマートな核兵器の開発ではなく、被爆者の声を聴き、それを世界に伝え、その記憶を世界のすべての人が共有することです。

私たち生協は、「よりよい生活と平和のために」を合言葉にして、いのちとくらしを守

る運動を進めてまいりました。今年も、神奈川県原爆被災者の会の皆さまと一緒に、「忘れてはいけないことを一人でも多くの方に伝えよう」と、「原爆と人間展」を開催し、多くの市民に被爆の実相と平和の尊さを伝えることができました。

21世紀を核兵器をなくすための時代にしましょう。人類が作り出した核兵器は人間の意志により廃絶できます。人類が他の生物と違うことの一つは、「希望を持ち、希望の実現に向けて努力することができる」事です。

生協では、被爆者の皆さまと心ひとつに、「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを行っています。核兵器廃絶の実現こそ、最も人間らしい行為であると信じます。

私たちはあの日、原爆投下によって一瞬のうちにお亡くなりになられ、あるいは志半ばで倒れられた皆さまの無念の思いを受け止め、核兵器廃絶と被爆者支援の運動を被災者の皆さま、市民の皆さまとともに進めることをお誓いし、追悼の言葉といたします。

2019年9月29日 神奈川県生活協同組合連合会 代表理事会長 當具 伸一